

教員名	長谷川 武弘 (HASEGAWA Takehiro)
所 属	子ども発達教育研究センター
学 位	博士 (医学)(2006 東京女子医科大学)
職 名	講師
URL / E-mail	<a href="http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~ccae/index.html">http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~ccae/index.html</a> / thase@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

障害児保育 / 脳機能計測 / 発達神経心理学 / 障害児コミュニティ支援

## ◆主要業績

総数 ( 1 ) 件

- ・榎原洋一, 長谷川武弘: 食育と注意欠陥多動症状傾向との関連に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「乳幼児の発育・発達段階に応じた食育プログラムの開発と評価に関する研究」平成18年度総括・分担研究報告書, pp.195-199, 2007

## ◆研究内容

乳幼児期の脳機能の発達的变化について, 保育園・地域における障害児保育支援に関して, 以下の3つの側面から研究をしている。

- (1) 新生児, 乳児期のクロスモーダルな脳機能に関わる発達的变化の検討。
  - (2) 幼児期のメディア視聴時の脳活動状況の検討。
  - (3) 保育園障害児巡回相談の実践的検討。
- (1)は東京女子医科大学乳児行動発達学研究所との共同研究として, 生後数日の新生児と生後1ヶ月の乳児が哺乳を行っている最中の脳活動の様子を, 多チャンネル近赤外分光分析法を用いて計測した。体動などで計測信号が不安定なものを除き, 現在解析を進めている。
- (2)は幼児があらゆる種類のメディアを視聴している際の脳活動の様子を, 帽子型の多チャンネル脳波計を用いて計測する。現在は基礎データとなる成人計測を進め, データの解析を行っているところである。
- (3)は, 関東近県のある地域において, 保育園障害児巡回相談事業を通して障害児保育の実施にかかわる問題点, 地域における障害児相談事業との連携方法の模索などを, 実践を通して検討している。

## ◆教育内容

アプリカ特設講座にて開設の下記の授業を担当した。  
「コミュニティ保育教育論Ⅰ・Ⅱ」

現在の保育を取り巻く環境を, コミュニティ心理学の考え方を通してとらえ直した。また保育場面におけるいくつかの問題点をとりあげ, コミュニティとしてどのようにとらえ, 改善していくのかを受講生と共に考える作業も行った。

「保育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

受講生個人が保育・教育に関わるテーマを見つけ, 調査研究を進める力を付けること(Ⅰ・Ⅱ)と進めてきた研究を必要に応じてまとめていく力をつけること(Ⅲ・Ⅳ)を目的に, 特に心理学の研究法を基礎に講義, 実習, 指導を行った。

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・音楽と脳機能の関係に関する研究
- ・乳幼児の脳機能，行動発達に関する研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

- 1) ヒトのクロスモーダルな情報処理に関して，乳幼児や成人を対象に行動実験と脳機能計測をつなげて検討していく．ヒトの脳における多感覚情報処理に関して，特に初期の発達的变化を描出していく．
- 2) 障害児のコミュニティ支援について，現在複数の立場として関わっている地域をモデルケースとし，新たな支援ネットワーク形成に関する研究を進めていく．
- 3) 保育園に在園する軽度発達障害児の数概念獲得を促進するようなクラス活動を構築し，これを実践する．個別指導ではなくクラス全体の働きかけである点に焦点を当て，この方法の留意点，

## ◆受験生等へのメッセージ

---

障害児の保育や教育に興味がある方，音楽と脳，乳幼児や成人の脳や行動の発達に興味がある方，ぜひ一緒に研究しましょう．